

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏名 矢田匡城

## 論文題目

Comparison of the multidetector-row computed tomography findings of IgG4-related sclerosing cholangitis and extrahepatic cholangiocarcinoma

(IgG4 関連硬化性胆管炎と肝外胆管癌の多相造影 CT における所見の比較)

## 論文審査担当者

主査 委員

名古屋大学教授

柳野 仁人



名古屋大学教授

後藤 孝実



名古屋大学教授

小寺 泰弘



名古屋大学教授

長崎 仁二



委員

指導教授

## 論文審査の結果の要旨

今回、多相造影CTを使用し、IgG4関連硬化性胆管炎と肝外胆管癌の鑑別に有用な所見について検討した。読影実験の結果、IgG4関連硬化性胆管炎と肝外胆管癌の鑑別に有用と考えられる所見が複数認められた。その中で、特にa) 病変内に膵内胆管が含まれる、b) 胆管の外側面が平滑、c) 胆管内腔が全て同定可能、d) 病変より上流胆管の漏斗状拡張、e) skip lesions、f) 膵の異常所見がIgG4関連硬化性胆管炎に、g) 胆管壁の2層性の造影効果が肝外胆管癌に特異的な所見であったため、CT診断の際にそれらを念頭におくことが重要と考えられた。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 日本ではCTの普及率がMRI(MRCP)よりも高く、臨床現場でもCTが最初に使用される場合が多いため、今回はCTを使用した研究とした。確かにMRI(MRCP)の所見も一緒に評価していれば診断能はより高くなっていたと思われる。今回はCTのみを使用した研究であったが、MRI(MRCP)に関しては今後の研究課題である。
2. 通常、乳頭状腺癌は胆管壁から内腔に突出する乳頭状の病変として描出され、鑑別は難しくないと考えられたため、除外した。
3. IDUSは空間分解能が高く、局所の観察能が優れている。一方で、CTでは胆管病変の全体像や分布、胆管壁の造影効果が把握できる点において有用であると考えられる。
4. IgG4関連硬化性胆管炎と胆管癌との合併については症例報告が少なく、現時点では両者に因果関係があるかは明らかではないが、一方でIgG4関連硬化性胆管炎では胆管上皮のK-ras変異を高頻度に認め、発がんのリスクを示唆する報告もある。また、最近の研究では胆管癌細胞の周囲にIgG4陽性形質細胞が多く認められることが示されており、IgG4関連硬化性疾患からの発癌を示唆するような著明なIgG4陽性形質細胞を伴う症例も報告されている。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名 矢田匡城
試験担当者	主査	麻野久人	行原秀実 小寺泰弘

指導教授 長崎久之

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 本研究で使用した撮影装置をMRI (MRCP) ではなく、CTにした理由について
2. 肝外胆管癌のうち、病理組織で乳頭状腺癌と診断された症例を除外した理由について
3. 画像診断におけるIDUSとCTとの違いについて
4. IgG4関連硬化性胆管炎と胆管癌との因果関係について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察能力を有するとともに、量子介入治療学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員会議の上、合格と判断した。